



6/1

## 読めるかな？ 飛騨の樹木の名前

飛騨古川建築組合連合会（坂部和久会長、会員企業12社）が古川町吉之町の飛騨の匠文化館前に、伝統的な枡格子をデザインしたモニュメントを設置しました。

同会のPRと、飛騨市で進んでいる広葉樹のまちづくりを盛り上げようと企画されたもので、様々な樹種の木材で作った28センチ四方の木板16枚を配置。マツの木板には「杣」、クリの木板には「栗」などそれぞれの樹種の漢字、同会や岐阜県産直住宅協会などのホームページへつながるQRコードを表記してあります。表記された漢字のよみとクイズも行われています。

坂部会長は「コロナ禍で出来ることとして、QRコードを使った看板で会のホームページなどへ誘導できる仕組みを考えました。市や会のPRも含め、いろんな活動をしていきたい」と話しました。



6/3

## 災害時の停電からの早期復旧にはずみ

北陸電力株式会社と北陸電力送配電株式会社、飛騨市が「大規模災害時における相互連携に関する協定」を締結しました。同社が管内の市町村と同様の協定を結ぶのは今回が初めて。

災害で電力供給への障害が予測されたり、実際に障害が生じた場合、連携して連絡体制の確立や障害物の撤去、電力の早期復旧に取り組むことが目的。平時から自家発電設備の設置や倒木の予防などにも取り組みます。締結式には北陸電力の上野等富山支店長、北陸電力送配電の老田爾富山支社長、都竹市長が出席し、協定書にサインをしました。

都竹市長は「災害による停電は市民生活への影響が大きく、まずは情報収集が重要。協定で市民への情報提供が円滑になるのでは」などとあいさつ。上野支店長は「協定締結を機にグループ体となって電力の早期復旧に努めたい」と話しました。



6/4

## 古川小6年生が地元の文化施設を見学

古川小学校の6年生児童が、総合的な学習の一環で古川町の飛騨古川まつり会館と飛騨の匠文化館を訪問し、見学したり職員などから説明を受けながら学びました。

まつり会館では、展示してある屋台、起し太鼓のレプリカなどを見たり、4Kシアターで古川祭を紹介する動画を視聴。同館職員に「屋台製作にはいっくらかかりますか」「展示されている屋台の大きさは？」「起し太鼓の目的は何ですか」と熱心に質問したり、写真を撮ったりして理解を深めました。

また、からくり人形を操ったり起し太鼓の「とんぼ」を体験するなど笑顔が溢れていました。

奥洞啓太君は「祭り屋台を間近で見たことがなかったので、『こんなに大きいんだ』と驚きました」と感想を話していました。



6/4

## 全 古川町の田口力三さんと神岡町の吉木直美さんへ 全国市町村教育委員会連合会功労者表彰を伝達

飛騨市教育委員会教育委員として8年間務められた古川町の田口力三さんと神岡町の吉木直美さんに対し、全国市町村教育委員会連合会功労者表彰が贈られることになり、このほど開かれた市教委定例会の席上、沖畑康子教育長から伝達されました。

田口さんは「長い期間お世話になりました。別の方面から出来ることを一生懸命にやっていきたい」、吉木さんは「保護者として市民として8年間、いろいろな意味で勉強させていただきました。今後は一市民として様々な方面から関わっていきたくら」と話されました。

沖畑教育長は「子どもたちの姿が良いとの声をいただいています。職を離れられても、いろいろな場面で気づいたことやご意見をいただくなどお力を貸していただきたい」と話し、永年の労をねぎらい、感謝の言葉を伝えました。



6/7

## 実 初となるJRとの合同訓練を実施 列車を使った実戦的な災害訓練

飛騨市と高山市の両消防本部とJR、飛騨警察署、飛騨市がJR飛騨古川駅の構内で、実列車を使った合同訓練を行いました。公共交通機関での事故・災害に対し、複数の機関が合同で現場活動をする際の連携強化や協力体制の向上を図るのが目的で、飛騨市消防本部がJRと合同で訓練をするのは今回が初めて。

今回は各機関から合わせて約60人が参加しました。列車内に煙が充満し、複数の体調不良者が発生したとの想定で実施。現場での情報収集や乗客の避難誘導、線路内を横断しての負傷者搬送など実戦さながらの訓練を行いました。

古川消防署の堀田丈二郎署長は「安全な活動を担保するには鉄道事業者と情報共有し、具体的助言が不可欠となる。今回の訓練で得た知見と教訓を生かし、各機関が連携し、それぞれの強みを生かせるようにしたい」と話しました。



6/14

## 飛 飛騨高山大学(仮称)が独自の教育手法の実証 飛騨市では「キャンプ部」の取り組み

2024年4月に「飛騨高山大学(仮称)」開校を目指している(一社)飛騨高山大学設立基金が、独自の教育手法として取り組む「ボンディングシップ」の実証実験開始を前に、市役所でキックオフミーティングを開催しました。

「ボンディングシップ」は、大学生が地域との絆を育みながらインターンシップとして企業や地域の発展・課題解決に取り組んでいくもので、今後は県内や石川県、北海道などで7つのプロジェクトを実施する予定です。

飛騨市内では、飛騨市ファンクラブの活動の一環として「キャンプ部」を設立し、活動を通して実証実験に協力します。

「部長」として参加する静岡大学2回生の中垣乃彩さんには、都竹市長から名刺が贈られました。中垣さんは「地元で設立されるという大学の取り組みに関われることは光栄。成果を残せるよう頑張りたい」と話しました。





6/15

## 朝霧連合会女性部研修会で認知症サポーター養成講座 劇で認知症への理解を深める

認知症の方が地域で安心して暮らしていけるよう、本人やその家族などを見守り支援する役割を担う「認知症サポーター」の養成講座が、飛騨市古川町朝霧連合会女性部の研修会で開かれ、役員33人が参加しました。

この日は、同サポーターを養成・指導する「キャラバンメイト」の皆さん5人が来訪し、認知症の様々な症状やその対応について講義を行いました。また、認知症についてより理解を深めてもらおうと、今回はじめて寸劇も披露。「ご飯を食べていない」と何度も訴える人や、道が分からなくなって困っている人などに対し、どういった対応を心がけると良いかを演じました。

同会の上口良枝さんは「この研修会で何かを得て、今後の生活に役立てていただけたら」と話しました。



6/28

## 賞 森下みさ子さん 祝百歳！万歳！ 状やお祝いの花束などを贈呈



森下みさ子さんは、大正年6月28日生まれ。父親の仕事の関係で神岡に住むようになったそう。郵便局などの仕事をしながら、2人の子どもを育てました。平成7年に旦那さんが亡くなり、現在は息子さんご夫婦と3人で暮らしてみえます。

この日は、娘さんが百歳（桃寿）にちなんで贈ってくれた、ピンクのちゃんちゃんこに帽子をかぶってみえました。森下さんは「こうして、子どもと一緒にできてありがたい」と手を合わせてみえました。

5年前の骨折がもとで車椅子生活になられましたが、市民福祉部長が花束とお祝い金を手渡すと「ありがとございます！」と言葉ははっきり話されました。車椅子でも居間でテレビのスポーツ観戦をしたり、週2回のデイサービスを楽しみにしてみえるそうです。



6/29

## 市 元公邸料理人の工藤英良さんを「食の大使」に の「食」の魅力を世界へ発信

市の食の魅力を市内外へ発信する「食の大使」として、元公邸料理人の工藤英良さんを任命し、都竹市長が委嘱状を手渡しました。

工藤さんは10年にわたり、公邸料理人としてカナダや中国、フランスで世界の賓客に和食を提供し、食の面から外交活動をサポートされました。その当時から、飛騨牛や飛騨産コシヒカリ、伝統野菜など市内の食材を高く評価し、素材を生かした料理を各国のセレブや著名人などへ提供してこられました。現在は出張料理人して活躍されています。

「皆さんとコミュニケーションをとりながら、地元の人たちの機運が高まるようなお手伝いができたら」と工藤さん。今後は、市の「食」の認知度向上やブランディングに向けた取り組みをサポートされます。

